

▼まつたけ文庫を訪れた子供たちに絵本の読み聞かせをする松田さん



夫の営む歯科医院の待合室に大量の本を持ち込んだ松田さん。貸し出しはもちろん、子供たちが楽しめるよう文庫だよりを発行したり、クリスマス会で人形劇を演じたり。地域の親子とのつながりも生まれ、楽しみながらやってきました。地域に愛される存在となった「まつたけ文庫」ですが、1年間、活動できなかつ

た年があります。再開を目指した松田さんが、文庫だより作成のために行ったのが物語の執筆でした。「息子と100歳を超えた親戚のおじいちゃんのはほ笑ましい交流の様子を書いて、おじいちゃんへのプレゼントにしたいという思いもありました」完成した物語は、文庫開設のきっかけとなった作家の後押しもあり『ボーイフレンドは104才』という本として出版されることになりました。「本になるなんて思ってもいなかった。それで最初は戸惑いました。それ以来、お話を作ってきましたが、今では子供からお年寄りまで幅広い年代の方からいろいろな感想が届くのが楽しみです。今後慌てずゆつくりと作品を作っていければいいですね」

心温まる物語を紡ぎながら、これからも松田さんは、地域の子供たちを見守っていきます。



▲25作品目となる『だいじょうぶじゃない』が12月に出版された



▲けんぶち絵本大賞の副賞、剣淵町の特産品と(まつたけ文庫で)



本と温もりのある場所

「まつたけ文庫」

Vol.119

松田 もとこさん
(美和町在住)

歯科医院の待合室で「まつたけ文庫」を運営するとともに、山里の自然を題材にした童話や絵本を創作している。『おばあちゃんがいるといいのにな』で95年日本絵本賞・けんぶち絵本大賞を受賞。

